



風俳

櫻多留

二編

64

二

利9  
3869  
14



風俳

櫻多留

二編

利9  
3869  
14

9  
3869  
14



羅山評

大正七年青書寄  
室刊平藏氏贈

ニリウ 西陣乃純王意是此ゆゑなり 志友  
 ハナキ 花より先ツ枝々あり和ら 芳羅  
 ニカ 肉桂を急樹二代も様々徳 李紅  
 ハテ 花経よりれりぬ言れ自 志友  
 ハラフ ころりころりみり女の日 碎 一狂  
 ニヨメ 迹々任むせりむらも松の凡 和玉  
 ハヨキ 白雲乃以文奉々るん系此物又 里蝶  
 ハシメ 娑乃もと酔へし長くうみふ 白布 五都

ハメナ	紫島之飯くらふまね	五廣
ハカヒ	むらりとも可あり	仙子
ニヲコ	日本の中んをりせ	雲城
ハカア	森乃居く	志友
ハヒハ	こけくあり	一毛
ハニミ	細ア	志友
ハニイ	葉乃	貴笑
ハカイ	むらり	桂雨
ハトチ	春	和玉

一ヲ	白い	和玉
ニハカ	女房	泰山
ハキマ	孫	志友
ハカス	白	和玉
ハハ	く	浦丸
ハケト	む	一毛
ニミナ	人	鬼笑
ニケカ	あ	南北
ハイハ	な	二角

ニハカ 仁初乃乃花人ヨアヤノ全情ナ  
 ニカム 劫之割さうれ能云此ヤム状  
 ハニム 雲城  
 ハヲニ 都  
 ハイタ 其友  
 ハホ 亀角  
 ハコヒ 鬼丸  
 ハナヲ 志友  
 ハイヨ 和丸

ハツキ 細松魚もあちをうらと自うつぬ 糸柳  
 ハヒハ 一毛  
 ニムホ 祇林  
 ハカク 一代  
 ハヤカ 巳水  
 ハノホ 露通  
 ハチヤ 馬連  
 ハナホ 志友  
 ハツサ 如竹



ハス、 蓮のけのすくせん月とすれうい 百帆  
 ハ、ウ ちうりけうてまうくそ母の里 女悦  
 ハレト 羽二きれ尾のかくも折純くさい 和玉  
 ニラヒ 綿織やりのふれけりけ男 谷橋  
 ニヒカ 針まきう人の切うけけり針 紙林  
 ハサユ ちうかこをさしとけうを伸 一九  
 ハヤ 後しはれまう中入の流を 仙子  
 ニヒト り中れりふ危を示とる彼所 毛織  
 ハイラ 花されくちやまさとあれまうけ 柳枝

ハサヒ ちうりけうてまうくせん月の折結 二角  
 ハナニ 萩葉やの砂妓れまふ危つらう 多吞  
 ニレミ 人るふけううう又のえ捨物入 紙林  
 ハナタ ちうかこをさしとけうを伸 谷橋  
 ハウレ ちうかこをさしとけうを伸 一毛  
 ニムシ 二ちうりけとあやう所の折味屋 中人  
 ハトキ 瑞くへちうぬ美女の給仕人 一止  
 ニノミ 二ちうりけを咽よ作のちうれ味 山下  
 ハツ ちうりけを咽よ作のちうれ味 龜角

ハキ子 雲も霞も霞も霞も代々まはる 叫之  
 ハキ 志も心も心も心も心も心も 二角  
 ニシタ 女房の志も心も心も心も心も 一毛  
 ニツイ 人男をつくる心も心も心も心も 雄水  
 ニヨコ 女房の志も心も心も心も心も 飛入  
 ハナ 母も心も心も心も心も心も 秋自  
 ハナレ 志も心も心も心も心も心も 秋自  
 ニカハ 二代めれ門下といふ心も心も 花月  
 ハレノ 初巻乃果つての志も心も心も 谷精

一 壽評

ニヒ、 西へつりふれつたぬひいし 雲城  
 ニチカ 俄る智恵さすまののうらうら 花月  
 ハカタ 幼者のうち笑うぬ人うらひぬめ 柳枝  
 ハトコ 志も心も心も心も心も心も 散人  
 ハー 志も心も心も心も心も心も 貴旭  
 ニタヌ 白蛇乃くまの氷れしとてさうら 志友  
 ハユカ 母親の志も心も心も心も心も 寿山  
 ハツウ 白蛇乃くまの氷れしとてさうら 挂雨



ハクヤ しく親の苦うしくを登よ哀りた 多吞  
 ハツユ 去るやまはうしく物とて友かた 祇林  
 ハタク くるやのたまふあふてたうかり 其友  
 ハミキ むれまふるむるりのまきそ外 山月  
 ニサム 夕暮の後の人うまの聲とせは 艸之  
 ハナヲ とうちやまおして合ふぬ跡のこ 一毛  
 ハニニ 掃くあふむまのせは迹うくい 里蝶  
 ハコヒ 幾明ふととるううもまは所 志却  
 ハニ 柴よまうととるううもまは所 寿山

ニヒト 女房お梅を扱ふ所の危侍迹 散人  
 ハシイ 放るら物よまきうう一の舟子 斗一  
 ハワア けんう傷とるれととあれうり 一毛  
 ハホト ぬの髪はぬおみれかともあり 散人  
 ニー 危まて掃くまきうう人 志却  
 ハチヨ 法とのうまてらうまとけい始 什伍  
 ハフソ ころあふま婦ころうけい子 一止  
 ハヤ むよ月香揚けり 寿山  
 ハイハ 多吞目をふとぬうれま花の危 天口

ハユヲ 嘯く人甲うりこなぬぬらこ 馬連  
 ハムコ 浮気のもれあひとさうらふん 鬼九  
 ハノユ くらあやのるこけしよまれ義 谷指  
 ハウキ 新よとくくくきりの切戸ある 柳枝  
 ハレ、 傍るとはまをきりしを蕭の妙 一毛  
 ニハヒ 産うれふふし我う月人の用 山下  
 ハ■イ 母うある達士達すお侍くれ 和玉  
 ハラノ ちむこれ産るハ有れまうはら 一角  
 ハツノ 母名乳のまけしと家とほの母 一九

ハタレ くられ嘆う産よとけくく去おれ服 衣地  
 ニヨノ 女房う産へ知恵出でて舌直し 加十  
 ハチ 掃くくくくくくくくくく 鬼笑  
 ニミモ 女房の母ふとくくくくく 為連  
 ニツチ ぬきと徳を突送りば女房を小ぢり 仙子  
 ニハ、 似と親をけくくくくく 栗山  
 ニタイ 女房を産くくくくく 士口  
 ニカ、 ニワカふと子ふあやめ杜若 和玉  
 ハナミ 子う産くくくくく 花山

ハソエ 母乃若をそころる 師は碑 志柳  
 ニラチ ニコ門子ききし 次女  
 ニカラ ニ挺やる 飛のきれ 服も 朝麻  
 ハレキ 尾まて 式りふ 鳥く 氣う 合りぬ 里塚  
 ハクカ ころ 扇うて ころ 飛れぬ 一止  
 ハツカ ころ しまつて 月ふみ けの 後 山 雲連  
 ニラヒ 女わらう ころ ころ のき 灯を 細め 支  
 ハナフ ころ ころ ころ ころ ころ ころ 月心  
 ハム ころ ころ ころ ころ ころ ころ 島南

ハヤレ ちきり 山乃 奥ま び 後方 乃 友 雲連  
 ハコニ 娘乃 夢る 心 傳 又と する 産 産り 壽山  
 ハルカ ころ ころ ころ ころ ころ ころ 柱南  
 ニイニ 二 巻 巻を ころ ころ ころ ころ 縁 孝和  
 ハホヲ 針か ころ ころ ころ ころ 女 日 士 浦北  
 ハタメ 針 本と 替 ころ ころ 安 塚の 昔 後 心 古心  
 ハスカ 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 竹多  
 ハナヲ 娘 ころ ころ ころ ころ ころ ころ 男 日 士 色 旭  
 ニサ 女 房 ころ 後 穿 ころ ころ 糸 糸 浦北

ニアヒ 乙仲め此百世しちちるも円氣 一毛  
 ハ子ハ 心しめちる痛るうり起る能うと 糸此  
 ハト 花より初よとくくち中はし 谷精  
 ニリシ 人甲乃紗つてうまら紫乃危 此子  
 ニレ ぬ夏幻泡新機入香と紗 万女  
 ハヲチ 心乃るヨット子あ儀ちるまてい 秋原  
 ニカナ 途くくくわく名入か名と上る 柳枝  
 ハヨシ 暇乃皮しとくを吐しと顔とく 芦紅  
 ニイヒ こそとらつてぬう又乃もくくう 和玉

ハクフ 伴氏乃くくくみい家乃るまをう志 ま吉  
 ニヲユ 女房よりまのほりまらるるを綿 二角  
 ハサク 別くくくくとあやと移移と参り 氏人  
 ハモフ 乃くくくくくくく人悟ぬちかあり 次女  
 ハモモ 花まをれをちくくくの餅くうり 子孫  
 ハヲチ 後つる我まふしまかやまきん 一毛  
 ニトイ 人乃れ徳とくくくく伊勢のま 糸巻  
 ニフス 二代めれふくくくくくおまがら 浦丸  
 ハアヒ 茶屋のあまふくくくくくの月 中城

ハナ 母親をあらふいとつらふい 左好  
 ハンス 花すゝた果をあられか果をあらう 菊鹿  
 ハツ くらゝとふらうらうらと連て果を 一板  
 ハアイ 仰きれ座くらと今らうらと 先旭  
 ニトテ 乙女とふらと戸に紙をかきふ合又 出口  
 ハツミ 子入眼の付く乙女乃水鏡子 之友  
 ハツ くらゝとふらうの連てかたり人 如鹿  
 ハムヤ 中ふいしを果を候入揚子座 姑枝  
 ニハイ 乙女乃喉果候ふ糸引う色 浦丸

菊英評

ハヨヲ くらゝとふらう入らふとあつ日一平 一止  
 ニシ 乙女夢幻絶然候果をあらう 百女  
 ハツヒ 花をくらゝつらてふらう果を候 志友  
 ハキミ くらゝとふられ果をあらう 二角  
 ハナヒ けしみの果をあらう 雲城  
 ハケタ 乙女をあらう果をあらう 鬼笑  
 ニハム 女座をあらう 斗一  
 ハシミ 乙女をあらう果をあらう 斐旭

ハタ 花乃多も 花乃多も 花乃多も 花乃多も 多春  
 ハシメ 後々々仕出々出々々女まうり 光旭  
 ハモカ 舞々々々々々々々々々々々々々々 鳥連  
 ニラメ 乙々々々々々々々々々々々々々々 草花  
 ハヨテ 卯酉酉酉酉酉酉酉酉酉酉酉 松花  
 ハキ ゆえん 花ひの 花ひの 花ひの 一毛  
 ニハス 女房入とくふととととととととと 柳枝  
 ハコム 後々々々々々々々々々々々々々々 光旭  
 ニキコ 白平れまの 白平れまの 白平れまの 霧通

ハホヨ くら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 鬼乳  
 ハナソ 参向の 仲居れ 参向 参向 参向 一奇  
 ハトヒ ち〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 一止  
 ハヤヒ くら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 月人  
 ハカム くら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 仙子  
 ハミタ け〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 霧通  
 ハナミ 押入ま〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 芦船  
 ハセ くら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と ？蝶  
 ニウア 似〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 船入

ハナト ちよあちのせきりうひまのうた  
 ハツコ 春の舟を指しとて女まのまがりの  
 ハシ、 勢ふの小使をくくつ降るマス  
 ハテラ 御ときあけれきりてあてを  
 ハス へやてあまのほしを  
 ハムヲ 渾身の力ありあつてを  
 ハツミ 夜つゆをまきとつめいちこんせぬ  
 ハツミ 夜つゆをまきとつめいちこんせぬ  
 ニムシ この足ふ物ふと降るのほろひ  
 山月

ニヤ 仁和寺と出が堆い  
 ニキ、 女房よ窓をうらみうきうき  
 ハナハ 晴のすそぬれぬふ女まうひ  
 ニツカ 物てがらまふらうてうきう  
 ニヨイ 女ぼうれりうきうふま  
 ニシテ ぶつとせの物ちふま  
 ハニモ 和給女房とてうきう  
 ハヒコ 喉かたうと挽白をうき  
 ハア とき進ひま  
 女友  
 木葉  
 夕暁  
 春歌  
 鬼丸  
 家通  
 万女  
 一

ハチタ	むらあをチヨイと笑り付まゑさしり	ち友
ハシナ	よくおやの磯ふと後の中より	柳枝
ニトテ	似てゑがうらうらふあつて貞女立	了連
ニシラ	こゑとんあつてね釘乃あしとら	和玉
ハケハ	あつた乃をそれたのそ唯ぶもの	一代
ハイト	あつたなり一家あつたを徳うれ	初麻
ニキニ	乙代めれまらうひさしく二弁佩	先旭
ニユカ	女房ちあつたこと今お下ス	月心
ハカヤ	お二きふ格のをねとる波並り	二角

ハアト	春乃りとし枝れまどすん友持	女伝
ハヨキ	よくあやの懸がむすあふ枝と月	和玉
ハキ	伴成りねきせる捨くめ	女友
ハリツ	よろあそ利にもつとまらさ	中城
ハマサ	ほくくあや捨りあそと後ひ状	折枝
ハア	捨くくでんごねがあつた	初麻
ハチサ	和給又とちたれ定まらぬ	仙子
ハア	あつたつらふあつたる	浦丸
ハツテ	よくあつたのつらあつたる	天口



ハコ 鳥をよむ鳥は味りし 和玉  
 ハカニ 鳥をよむ鳥は味りし 了連  
 ニキト 女方の鳥をよむ鳥は味りし 鳥通  
 ニナユ 人々の鳥をよむ鳥は味りし 芦花  
 ハトク 鳥をよむ鳥は味りし 多春  
 ニフク 鳥をよむ鳥は味りし 山月  
 ニハト 乙乃勝くもよむ鳥は味りし 糸柳  
 ハヤハ 鳥をよむ鳥は味りし 百女  
 ハフテ 鳥の鳥をよむ鳥は味りし 浦丸

ハアツ 鳥をよむ鳥は味りし 鴻子  
 ニクキ 二幅針針と鳥をよむ鳥は味りし 巴水  
 ハナ 鳥をよむ鳥は味りし 生友  
 ハク 鳥をよむ鳥は味りし 仙子  
 ハヤキ 鳥をよむ鳥は味りし ぬ竹  
 ニヨイ 鳥をよむ鳥は味りし 中城  
 ハアカ 鳥をよむ鳥は味りし 控馬  
 ニウチ 鳥をよむ鳥は味りし 浜林  
 ハタク 鳥をよむ鳥は味りし 市熊



ニシト 女房くよとたしくれしと申す 其友  
 ハノナ 三條のふれはる馬無ふかこい 雲城  
 ハノコ 細く夏ふよめをよとを食ら子 一寿  
 ハカエ しくややく花のまうく餅をつくあ 一敬  
 ニモ 若くても焼く餅つたの物又 花月  
 ハコホ 名の中ふお入すうとつ仲の気 什伍  
 ハラ こん菜とわく子鬼も十八 李紅  
 ハヒカ はゆえ人目のまれうすく入り 散人  
 ニメユ りおれる向ふ宵きりあ士 一止

ハロイ ころころの一夜しんをさしと 露通  
 ハスト 傍くくすけるを人をもがら子 雲城  
 ハヤ 腹くくも念破れまうかみん 糸枰  
 ハコレ ともうりまゑびんのまれせうたむ登 谷橋  
 ニヤム 二と好山のまげうふ村乃久ケ 南眺  
 ニチ とうくあ士ふチャルも口將し止 浦丸  
 ハハ ころれ然く傍る浮きい 芦舩  
 ニクハ ぬくろく九くよあううらげう子 運助  
 ニチ 迹テヤウセ我智と息と感ル 一止

ハツシ ちよふれ 遠はくしつ 殊敷 飾 志 却  
 ハテラ 針や やれも 柄 捧 行ふ 福 あり 一 毛  
 ハタツ ちよふれ 田を ちよふれ ちよふれ 月 の 柳 而 小  
 ニヒト 人 ちよふれ 死 けり ちよふれ ちよふれ ちよふれ 位 ち 月  
 ハツキ 去 ちよふれ ちよふれ 月 ちよふれ ちよふれ 切 ち 枝 今 山  
 ニミユ 人 ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 柳 枝  
 ハナ 白 然 ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 李 花  
 ニニア ニトリ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 糸 折  
 ハコチ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ

ハア ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 竹 馬  
 ハクシ 去 ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 一 致  
 ハハ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 一 寿  
 ハヨフ 初 旅 ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 日  
 ニトヒ 二 階 ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 散 人  
 ニヤナ 綿 ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 祇 林  
 ハイ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 師 子  
 ハワツ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 志 却  
 ニイ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ ちよふれ 杏 紅



ハトユ	とて池のうらみ月とりまひ	彦通
ハヘヒ	はらけり年齒のらとる後う	号山
ハヨ	はあれト句くよあひま伸	幼猪
ニセユ	人形んちせらるのんれまかろ	ア味
ニタコ	りむの大救ゆまし急と物ひ	号山
ハミツ	もさうりみさる経の仲	一号
ハツテ	物ゆこも様さくある中まれち	吹号
ハアハ	ほらうりあまうまきそらうり	柳枝
ニヲヒ	ふくし人のまいあまれ一急号	号友

ハメシ	恥ふれ飯ち取ふう定本え	州々
ハア	たよりも葉の堆いあつひを	露海
ハタヨ	むよあのたてれふかとの菊うま	一九
ハヤミ	後のうち指つた袖と越ス水のま	初麻
ハシカ	くくやちりもさうりくも指子面	毛旭
ハカト	洋紙とうさうく又のキヤ〜	和玉
ハコカ	やまらちチトウなまことまき家世れ	中城
ハナマ	ひまらんかんのままとない不巾〜	百眺
ニムメ	人まきのまを遠くそそなうり	香海

ハトニ 後のつらとたよふ帯もゆるさず 糸柳  
 ハソキ しくいふんそらうりくくと梓もきり 秋山  
 ハナイ ぼつろくはなふとねとつらきけ 耳岐  
 ハロヨ 梓もよみ無うらまゝと能と東 仙子  
 ハホヲ 梅乃うを帽をも綴くこよと車 志旭  
 ハウイ 灰ふこのよとくぬきうりそしと 一紀  
 ハサワ ともく越と坂くろくたつしけり 粒由  
 ニヤヲ 二をまたれやとくくはせぬ金小紋 吹号  
 ニヨホ 鶴りしよしんまきふまをと郎 一紀

如竹評

ニヒ、 うくひのひよの竹の東山 雲城  
 ニテ ありうねあふよくくる 一壽  
 ハツレ くらつね魚花も能くも指と日 志友  
 ハナヲ 是と杖うらむうなとろまろぬ 一毛  
 ハロワ もよをのしつろさきんくわしき 日  
 ハセタ 々母さけく置るねもあふ大はくす 桂雨  
 ニワカ 女ほくもつらねくひらふよか何ぼく 里蝶  
 ハキカ 付取の乳もぬねもやも丸ふさ 露通

ニシ、 髪をまきしつてハ可憐もなほあり 鬼笑  
 ニミ、 燈の中灯うけし水もあま 一寿  
 ニツカ 俄然つゝもの風鈴を吹し合は 桂雨  
 ハナラ しくなれなまらるるもさるる 都廣  
 ハフカ 青水をとふむも思ふれぬ之介 浦丸  
 ハエラ 初程と酔ふれもあはれさるる月 雄水  
 ハンタ 絆て待てつうせのるる春をさる 其友  
 ニテ ぬく新りのあはるるのつゝも 亀角  
 ハカク 初めのら雪をぬく人々もさるる 柳枝

ハイツ さんちの子の雪を履ハ入物をぬり 竹林  
 ハオニ ともちりしそとれ九て入家入り 一毛  
 ハイノ 梅の香一ツ新うけと後ヤの軒 志友  
 ハケヒ 娘うめ似城もほし離れまらり 考山  
 ハツカ 春風の枝もあはるる笑み 町丸  
 ハンレ 雲もあふ山知く下中しと 海丸  
 ニノウ 何と恵もねと細もあると枝 鬼矢  
 ニキニ 春もあはるるあはれ仲るのあはれ 色紙  
 ハサツ 花もあはるるさけらるる年々 柳枝



ハレヲ けりすそそ 妙やいそそ 夢 一  
ハユヲ 機音と琴音のあつたる 志 九  
ニクハ 二二年くひ 延きん 仁 九  
ハホム 尿り痛きりそ 妙 竹  
ニキユ 日美のふもあつた 妙 九  
ニス ありそり 妙 丁  
ハナヲ 八系の中へ 妙 志  
ハスヒ 母つとて 妙 一  
ニユウ 若くやて 妙 人

ハサ 去ら 妙 百 妙  
ハヤ 子入 妙 仁 巴 水  
ニモウ 傍ふあふもの 妙 女 五 六  
ハヘト もりり 妙 の 妙 多 長  
ニイク 二 妙 妙 妙 妙 妙  
ニツタ 去ら 妙 妙 妙 妙 妙  
ハニヲ 子入 妙 妙 妙 妙 妙  
ハタク ちり 妙 妙 妙 妙 妙  
ニトハ 入 妙 妙 妙 妙 妙

ニア 匂いよけしる 匂くこの鼻 一夏  
 ハクチ 香取のうましくちよらういしる 鈴鹿  
 ハチノ ちんちんあつて 唐橋よけの友 光旭  
 ハノス ちんちんあつて 唐橋よけの友 山下  
 ハヨ 母とちんちんあつて 唐橋よけの友 一角  
 ハチ けしめをねかんとあつて 唐橋よけの友 毒角  
 ハシチ ちんちんあつて 唐橋よけの友 寿由  
 ニラク ちんちんあつて 唐橋よけの友 仙子  
 ハツチ ちんちんあつて 唐橋よけの友 五鹿

ニレ 女房とちんちんあつて 唐橋よけの友 奇由  
 ハトク ちんちんあつて 唐橋よけの友 玉珠  
 ハウニ ちんちんあつて 唐橋よけの友 玉珠  
 ハタヒ ちんちんあつて 唐橋よけの友 玉珠  
 ハアム ちんちんあつて 唐橋よけの友 玉珠  
 ハチ ちんちんあつて 唐橋よけの友 玉珠  
 ハウニ ちんちんあつて 唐橋よけの友 玉珠  
 ハウミ ちんちんあつて 唐橋よけの友 玉珠  
 ハア ちんちんあつて 唐橋よけの友 玉珠

ハム	母ハ乃子ハ	智りの好お	教人
ハセヲ	八月のぬ改武まを	りうらがり	秀色
ハクト	移越リヤ	くふ智法に麻ふ	冥
ハイ	母の眸り	まは	雄あ
ニハ	ち	ふ	仙子
ハアタ	むら	あ	士口
ハコ	く	ふ	そ友
ハルサ	春	な	花月
ハツ	母あ	つ	一正

ニモ	女	ほ	う	別	を	て	お	て	る	杖	守	多	連
ハミウ	仲	を	と	ん	を	し	れ	し	枝	木	ら	山	下
エウチ	庭	先	に	て	終	ん	ま	の	地	を	教	仙	名
ハロイ	初	う	ら	不	引	さ	け	と	あ	ら	は	名	山
ハミウ	危	下	の	お	よ	お	く	る	魚	う	活	重	佛
ニアウ	女	房	れ	あ	ら	う	ら	後	よ	因	て	重	紅
ニホイ	ふ	え	う	危	葬	ふ	へ	掃	て	入	ま	重	道
ニツキ	冬	く	さ	と	月	よ	う	に	安	れ	ま	重	友
ハモシ	娘	ま	た	ね	の	ま	ま	ら	く	り	奥	重	月



ハコア へんげ髪ころりよはまのあまこ 弓朧  
 ハカワ 和嶽 つとよあまのあまひちり 於座  
 ハホ ころりよてほしひ久茂 一毛  
 ニラウ 何とほれをひてつらうあまひ 次女  
 ハヤキ 流りまぬぬけ又のまこけし 一止  
 ハレト 高次のまぬぬけまうあうたし 巴水  
 ハウシ ますらう控めん辰のらあぬく 赤辰  
 ハニコ ハイさやうまろくつめり替へり 去友  
 ハンタ 違つけんせむがのままろく 梅枝

ニホ ころりよあねぬころり人懐き 寄山  
 ハカウ 八卦のう程男かりり室のつと 赤角  
 ハキヒ げくう系り中まきり此多友非 運脚  
 ハコチ 多明なまふ休まぬ又のしひ 多言  
 ニモカ 外果大ケの保てまらぬ 信たぬ 信  
 ニハウ ころりよ走つてつりてぬと中ウ 浦先  
 ハキラ 八卦のまきり人連れみろく 赤色  
 ニア 人召れをあらぬ水 五旗  
 ニワキ ころりよあまのあまがれあま 一代

ハニ 神皇く捧へたワの中うし 御持

ハムシ もちりりめいしあはれはと致うまに 百味

ハミキ ともうききあはれはと致うまに 百味

ハトリ 娘乃らと致うまに 御持

ハタ 美めもさうひう精多きやと出 一毛

ニスハ 入伸の節一と致うまに 御持

ハテカ 仁ものあはれはと致うまに 天口

ハニヲ ちかてとあはれはと致うまに 梅枝

ニコヨ ちかてとあはれはと致うまに 女腹

ハヲワ 張合うみさうしと致うまに 尾尖

ハハハ ともうききあはれはと致うまに 芳茂

ハキミ ハイづとあはれはと致うまに 二角

ニカチ ニ倍うしとあはれはと致うまに 三味

ハキ ともうききあはれはと致うまに 一州

ハヲヲ けくみやとあはれはと致うまに 二角

ニス ともうききあはれはと致うまに 百味

ニト子 女腹丸おれのけくみやと致うまに 百味

ハニヨ けくみやとあはれはと致うまに 天口

ハイノ 孤しあそびしを 後あはれさるる 乙角  
 ニカカ 乙本佩るるやうに 仕出さるる 乙味  
 ニカ 紗白く 淋め下るる 喉の直 谷指  
 ニイキ 糸のふも 入るる 妻の糸より 如竹  
 ニコヨ ふうふうと 吹く 風より 忘機  
 ニアキ 女房ふれ ありて かく ねを 志取  
 ハミサ とうとうと 入るる 女のさき 未展  
 ハヒ けら 髪を かくし 人のおと 什伍  
 ニカウ にくく かくし かくし かくし 状 蜀小

ハレセ 流しな 髪を かくし かくし かくし 杏紅  
 ニヨ かけても かくし かくし かくし 吹雪  
 ハナ とうとうと 入るる つく 女の 髪を ち友  
 ハヨチ 髪を かくし かくし かくし 未展  
 ニヲチ 女房の 髪を かくし かくし 未展  
 ハセム 後の 髪を かくし かくし 未展  
 ハシハ 髪を かくし かくし かくし 未展  
 ハス 髪を かくし かくし かくし 未展  
 ニヲハ 二階 かくし かくし かくし 斗一

ハヨキ ころむやのよしれ女房と云記さけ 寄山  
 ハウチ けろくこと伏向く揚かろくわろ 鬼金  
 ハコナ 張ること替女別とくわろみろ 松花  
 ハナヲ 中ふんちかくさみ妻の獄わろし 仙子  
 ニヨヲ ころいかりねふいっしとて大澄き 可矢  
 ニヲテ 此之人男うあつとく翁なりし子 飛入  
 ハイ 計とく一枕さすぬ浄まり 士口  
 ニタヲ にくそくさくくねふくそあろくろい 飛入  
 ハアム けろ明子細くとまふんちろくしん 飛入

ニヤク ちくまはくねふあ改らるる 一毛  
 ハタツ 幾明へあさぬ女のまゝ大車 怪ゆ  
 ハウチ ころくころほろをころくこ。ぬ甲 了連  
 ハウチ 八軒う合わくわろまがせく 了様  
 ニハカ ちくまきくく鼻さすんを喰らふ 一毛  
 ハウコ 妻とのかくくふい急う出来 む山  
 ハナヲ 計放く仲人のしゑるまゝ迹テ 有蛇  
 ニサハ 二筋くくくさす行しれう合い 了口  
 ハ、 新うわくくくさする経来 劫糸



ハム、 ころやろりせまてあひれげんから 雲山  
 ハツミ ほろろそよ妻の病はすれ 美好  
 ハヤキ ころりころりほろりして気ま針 一止  
 ハモシ けんころいづ門に様色を主人の画 會珠  
 ハナヲ 後うましくなぬ可き男つゝ 志友  
 ハカキ 浮うんど紙しやとつゝく丸のまゝ 又保  
 ハアキ 母のころりあつゝくあま、天理うま せ友  
 ハトコ 不器うりかさと指を急病し 歩山  
 ハチ五 病女の地と病ふろく、後果をんせ 女悦

恭夫評

ハワア 勘辨と式小像よあさるをこゝ 雲城  
 ニタヤ 似と事とたよりふ毎ハ樹カハ松 浦丸  
 ニロ ころりもがく一人物の味 李紅  
 ハコケ ころりあつゝあひ切るも結の糸 未曉  
 ニコホ 綿木の男ころりかゝる星をよふ萩 志友  
 ハミス 後立のころりあつゝ女房の居り所 春山  
 ハナヲ 略とかなつゝあまふあつゝあつゝ 志都  
 ハニカ けろり張あつゝあつゝあつゝあつゝ 桂雨



ハナシ かつた起るちあはれをさよふまき新 一 致  
 ハシノ とうきよよけは舟をさよとよき仲 谷 搦  
 ニホリ 肉合のふよらあひらつ組仲の忠 寿 山  
 ハラシ 物よりおころるよのくよと 志 塚  
 ハハコ 母もまよと婿のあきらあきら知る 一 代  
 ハエイ 白ほえん保ちよほくきまをほし 志 友  
 ニワカ ちくきく我まよあまの路くま 汁 伍  
 ハミニ ちくせも男よ入信まよ女房別 吹 巻  
 ハタナ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴

ハニ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴  
 ハミナ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴  
 ハミフ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴  
 ハケス ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴  
 ハシ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴  
 ハテミ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴  
 ハウ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴  
 ハコフ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴  
 ニトヒ ちんちんくハ辰ぬまは 月 加 朴

ニヒ 二代めを留る所の細 ちり  
 ハセラ 如給をるれき理りしりらひ 州之  
 ハミワ らん島を名志のくれ多ひひり 志取  
 ニトヒ 人界へをささすこの仇の傍 仙子  
 ハセ 羽城をるく喚子望独り 西庇  
 ハウマ らん如さうり乳母らん台点のまはる 祇林  
 ニコヨ くらん度もほれよめらるよひをさる 志取  
 ハタラ くらんをと給くめらるくわらるらん 志取  
 ハコレ 将帰くあらはる種も面をかり 天口

ハツコ 汎も利カもまふあつて古川をる 竹馬  
 ハス、 湯以らスワとらんらん神もらん世 山下  
 ハノ くらんを連よめのをへて小イ 文泉  
 ハニコ くらんをまらるる葉のむれ無正ち 中塚  
 ハア 婿よよゆらん林りめらるれら 仙子  
 ハウテ 浪焼の表もらんらんらんらん法キ 志取  
 ハレ くらんをるるを志くぬ糸のを 中塚  
 ハイハ げらまてわらんぬれらんらんらん 竹馬  
 ハムタ 花畑らんを志くらんらんらんらん 志取

ニサ 針より長かりの脚中の味 扇風  
 ハニロ 蠶ふ絹とま綿で針と編う干ぬ 志那  
 ハトク 花より花をうらまうりそたけ 中城  
 ハ子 木をたふすて居て居る時 又味  
 ハヨサ 心をもちも徳い表すうと百身 柳枝  
 ハテ 白糸よりあつくとて物乾母子 一毛  
 ハウタ 木の山備向うともの移り 柳枝  
 ニアリ 乙女よ枝のめくとそ此判り修と 毛友  
 ハキハ 八乃屯まうくお平くはるおめ 毛味

ハチノ 花よりうらまやも酒をさうさ 糸竹  
 ハナア 結乃波かうまうとまの力を味う 中城  
 ニナタ 少木より人長しうと方うれい 杖月  
 ハチウ 花よりよまういちかふと居る 一角  
 ハモシ 羽二をてりうらり中の味 中城  
 ニタコ 人より花をうらまうと小味 香色  
 ハシ 花より花をうらまうと味 毛味  
 ハキコ 花より花をうらまうと味 毛味  
 ハツハ 花より花をうらまうと味 毛味

ハムフ 笑う髪むくくち交う降まうく  
 ニウス 女房の着せり細くくしきまぬ  
 ニタマ 人呂れ種を構うくまぬくめ  
 ニク 二を安ふくくくれ  
 ハタ、 まる乃くくくくくくくくく  
 ハムノ 好飲のくくくくくくくくく  
 ニトヲ 綿織るくくくくくくくくく  
 ハヨサ もれくくくくくくくくく  
 ハカラ 春の味くくくくくくくくく

魯圭評

ハチヒ 掃ちくくくくくくくくく  
 ハソ ぶくくくくくくくくく  
 ニトソ ぶくくくくくくくくく  
 ハ子ヲ 細くくくくくくくくく  
 ニシ 綿くくくくくくくくく  
 △チ ちくくくくくくくくく  
 ハヤキ けくくくくくくくくく  
 ハヘト 糸くくくくくくくくく

什伍  
 州々  
 兮山  
 兮情  
 去致  
 加朴  
 如竹  
 志友  
 て口

谷橋  
 花月  
 其友  
 志友  
 只水  
 其友  
 都橋  
 一毛

ニニク 二階うらま違さふらちちん人 妻方  
 ニヨヲ ふらまれてせよすむ甲斐入人考備 奇山  
 ハヲイ 細うらやのふみのふらちちん 首小  
 ハア 抱ちうらみらち南テもぢうん 左好  
 ハミヌ ころうれをち産ま新ハ暖くさげ 与水  
 ニキワ にくうつと氣のすそをさふらちちん 一角  
 ハナヲ ちくぢやの泣くか跡の男伊達 士口  
 ニサム 途うけんじかかんうらちちん 州々  
 ハテ 強うらちちんをさふらちちん 海島

ハカア くらもめてまふらちちん 浦丸  
 ハテエ けくちやの自ん女ぢうて縁をい 柳枝  
 ハ ころい大ぢよをさふらちちん 雲海  
 ハライ むれ山ぢよをさふらちちん 一角  
 ハフメ ぢうれをさふらちちん 浦丸  
 ニサ ぢうれをさふらちちん 木英  
 ハミチ くらもめてまふらちちん 吹寄  
 ハヤソ ぢうれをさふらちちん 州々  
 ハフ ぢうれをさふらちちん 和玉

ハシ	あう〜物〜新室の嫁	祇林
ハナ	あひら〜な〜と〜終〜と〜好〜と〜う〜な〜い	位多
ニト	賑〜と〜あ〜う〜終〜と〜う〜や〜し〜う〜り	か竹
ハカ	後〜う〜う〜新〜所〜身〜う〜に〜う〜の〜も〜あ〜	士口
ニカ	鷄〜と〜信〜〜と〜い〜う〜ら〜と〜真〜伽〜志〜り	二角
ニシ	女房の始末は是	車吃
ハサ	信〜と〜い〜ふ〜と〜も〜る〜女〜れ〜〜と〜年〜	士口
ハコ	神〜と〜れ〜れ〜と〜あ〜う〜〜と〜ま〜と〜無〜と〜せ	芥橋
ニラ	ふ〜と〜信〜と〜い〜れ〜神〜宗〜人〜	仙子

ハワ	〜と〜あ〜〜と〜子〜の〜い〜上〜子〜の〜物〜と〜ら〜れ	手友
ニカ	人〜と〜れ〜皮〜の〜あ〜り〜と〜鬼〜笑	鬼笑
ハハ	〜と〜ま〜〜と〜終〜と〜あ〜う〜〜と〜無〜と〜あ〜れ	一柱
ハメ	針〜と〜目〜の〜表〜と〜と〜と〜空〜う〜り	一止
ハナ	八段〜と〜人〜と〜か〜ん〜と〜り〜て〜う	手友
ハカ	〜と〜う〜〜と〜終〜と〜あ〜り〜れ〜れ〜あ〜り	可知
ハカ	母〜と〜う〜〜と〜人〜と〜と〜と〜あ〜り	知友
ハチ	け〜と〜う〜と〜終〜と〜あ〜り〜と〜と〜と〜人〜	知友
ハタ	〜と〜無〜と〜ま〜と〜代〜と〜あ〜れ〜と〜あ〜り〜と〜	百女



ニヨヨ けくふはく半くしてをとりぬ 本吃  
 ハト 咄うきれく半を句合入 一毛  
 ハナ ころん親にやなうく口利き き旭  
 ニラ、 くら先く海越すと親れゆ子 女悦  
 ハメフ ころん明が女まころんう抄ひ子 石月  
 ハワ 後向の送者うれち死旬 如竹  
 ナ ころん女れ別深む石男 石友  
 ハナラ 花すころん中うと抄ふまうりもの 柳枝  
 ハラシ ころんれころんあひちヨコく小便ころん 浦丸

ハレ 恥とくころんともおぬ根子物 如玉  
 ハミト 心とあをころんころんころん下兜をまれ 一親  
 ニカニ くらころんあを筆ころんれれれれれれれれれれ 露通  
 ハハ 白音く抄もの抄ころんむの比 百女  
 ハウタ 流るるれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ 袴雨  
 ニラ 二階く居ころんあ入さす 娘 里珠  
 ニセツ あうころんふれうあましころんと抄ころんを 浦丸  
 ハヒツ ころんころんれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ 石月  
 ニハミ 人界をころんころんころん半よまはれれれれ 月心



ハヤニ	早起しや美後と云ふ者	社尾
ニテ	そなたをナト暖くかると親分	一角
ハヤ、	後孫においしくらうと此心	一と
ハイハ	とらふといふれも長よたう	孝女
ハニ	咄しつり子も若乃	菊地
ハイ、	後まきくまぬもそがくま	志功
ハカ	むろとのししく學れなつん	と味
ニハセ	人男乃ううれもろく	山下
ニハカ	りえれとあゝと	行子

曲坡評

ハイサ	ろやうのりこと	一二三	津	馬連										
ニコタ	女房よ其心	はれ	ろ	押入	什奴									
ハシ	ハ桑のう	い	と	水	海	守博								
ハサ又	伴以ら	吉田	の	文	あ	け	と	ま	ウ	全				
ニテイ	二代の	下	戸	ひ	し	つ	け	わ	あ	ま	り	先	旭	
ハチヒ	とく	経	へ	お	葉	塔	を	と	独	り	そ	谷	指	
ハアシ	とま	ら	り	と	ら	ら	の	ね	れ	幸	丸	多	吉	
ハノヲ	け	ち	や	と	退	い	と	ち	ま	と	お	丸	鬼	丸

ハアク 判人のまうつかりきりきりきりきり  
 ハナカ くりくりくりくりくりくりくり  
 ニシヲ 女房らりりりりりりりりりり  
 ハツマ 母の服れりりりりりりりりりり  
 ハカ ともともともともともともとも  
 ハモ 鼻毛のりりりりりりりりりり  
 ニシ ねりねりねりねりねりねりねり  
 ニカタ 人々の物掛とよとよとよとよ  
 ハヤク くりくりくりくりくりくりくり

一歩 紅毛 一歩 行る 一歩 一記 多唇 五麻 一毛

ハタ 万半正一りりりりりりりりりり  
 ニフア 俄雨ゆつくりりりりりりりりり  
 ハヲモ けりりりりりりりりりりりりり  
 ハウノ 方圓の窓で鼻もりりりりりりり  
 ハチカ 紫昌か地れ利をりりりりりりりり  
 レ 勒肚巾を締りりりりりりりりりり  
 ハイ 八百屋をりりりりりりりりりり  
 ニマク 危なきのねを扶突りりりりりりり  
 ハミテ 笑とはりりりりりりりりりりりり

和玉 一毛 志友 州之 次女 幼府 菊小 一九

ニテ 二八の娘くくんらんを等 祇林  
 ハヌイ 糸とらや寝との傍もさしひ 一毛  
 ハイ 白とらんを糸結く事 浦凡  
 ハタイ 花嫁れゆと耀ちつとそぬふ 西叱  
 ハウハ 和年ハうふいふて母もあり 飛入  
 ハモコ 蜂しとあらうとつてれ意がぬふ 氏人  
 ニカセ 小くまはれぬを信やと喚とけ紫く 桂也  
 ニスイ ちあしとけ取名うつとを改對る 定城  
 ハタ 住くつとあままうり物とけ紫月 竹と

ハヒス とけとまを捕くんとさめ 秋原  
 ハウラ ねとのまをさく大構へ 乞友  
 ハニシ けみやち二夜物の西ひも 教人  
 ニキフ 人取をくさるる老とさるる 玉女  
 ハツイ 南菊と月見とあとの早白え 西叱  
 ハヤナ 子もさるり如を摩ふあつて出る 竹と  
 ハナマ くら船とがらあせしまふ強うり 浦凡  
 ハニ 唄の尻ちうとなくまい 志和  
 ニセチ 臥ちう令て整七八とさるや押 月心

ニアキ 人よりれあひ強し帰集の日 士口  
 ニツヒ 女房の角建勢をいりし事 尾丸  
 ハイラ 人よりあふはねの大人骨法 角丸  
 ハイカ 春乃末一りよる 天口 連  
 ハキア 春乃のまほしき物なほほむる 天口 入  
 ハニ 心の上巻 御前め 一正  
 ハナト 春すこと夏とあはる 御前 御前  
 ニライ 捲くく 揚れをゆるく 春水  
 ハキハ 狂歌のよきものあり 志野

ニサコ 女房の産む物 角力より 叫之  
 ハトヘ 人より乃降る最し 一毛  
 ハトキ 八陣をさか 志野  
 ハ子モ 春乃をさか 里  
 ハナハ 春乃をさか 志野  
 ハキ、 春乃をさか 谷  
 ハカハ 春乃をさか 柳枝  
 ニホウ 春乃をさか 次女  
 ハヌヤ 春乃をさか 天口



ハニク ちんちんをまきけりあしふ受大根 其友  
 ハニ ちんちんをまきけりあしふ受大根 柳枝  
 ハニヨ ちんちんをまきけりあしふ受大根 谷橋  
 ハニ ちんちんをまきけりあしふ受大根 一毛  
 ニカ豆 猿も笑うりあしふ受大根 兎  
 ハトヤ ちんちんをまきけりあしふ受大根 雲外  
 ハト 鼻のちんちんをまきけりあしふ受大根 香山  
 ニナニ 女房のちんちんをまきけりあしふ受大根 高道  
 ハニヤ ちんちんをまきけりあしふ受大根 一毛

巴勢評

ハスヲ ちんちんをまきけりあしふ受大根 谷橋  
 ニカタ 針車月此傘もあしふ受大根 竹馬  
 ニステ 完玉とちんちんをまきけりあしふ受大根 志友  
 ハチ ちんちんをまきけりあしふ受大根 仙子  
 ハカク 海をまきけりあしふ受大根 李紅  
 ハウカ 浪焼のちんちんをまきけりあしふ受大根 花月  
 ハヒハ 晴れてあしふ受大根をまきけりあしふ受大根 一毛  
 ニキカ ちんちんをまきけりあしふ受大根をまきけりあしふ受大根 南鼎



ハシ 神皇よまの小便はよび 一九

ハツミ 存心の鶴一家中へみだんけく 斗一

ハツコ くらくらくら 汝乃おつくらんぐん 天口

ハアツ 灰吹とあけくらとぬらつとあけぬい 鬼笑

ハイム 鼻と服と一皮よ巻る 梅の花 雪城

ハツチ 後親仁づくく 嫁うかあうら 花月

ハヨハ 洞二重て押を水ももあると七娘 秋山

ニヨヒ みるめん乃れよ 恵力の海うらうら 一紀

ニカユ 臥又まうや 新をけうあるを食む子 市飛

ハアイ 花くらあけと大名語つとあけ かけ

ハカ 羽振ましくまは髪ハ鶴鶴 仁子

ハカト 橋乃落まき 女あまを世より 一歩

ハクキ くらねやの悪癖といつてく 雪むけ 鴨子

ハカツ ほろろ鳥雲入 振枝よ飛うあけ 女友

ニミモ 女房の耳なりく 子いりのいさひ 馬連

ハニモ 破テられたのそおつるそくの海 秋山

ハラカ 紫島子お母あをえん乃川子あ 浦丸

ハツト 遠れ雲の落るくらわ 浜仲る 春山

ハヲ むれ夕巴のツット敷きと 走但  
 ハコニ 時約奇小奇て嫁の二階 枝 一狂  
 ハソユ 流のあよそまうと又の傍りきる 五六  
 ハタツ けいこ回とくくやる月れ所 菊ふ  
 ハナハ 花うらもなんそくひふふ奇曲拍 菊枝  
 ハシト 鱒うかや知まぬ左不れ知念ん 仙子  
 ハウモ 志又連妻食よめと先せし 谷橋  
 ニタア 女悦丸結奇く付返む安倉文 雲城  
 ハテ 鼻十文とよと物に鳴く 士口

ニヒハ 鶉と一ワらひうくお河くき 飛入  
 ハカサ 初便已候森れ又の是奇か威 欽山  
 ハテラ 橋をりふ挑燈も及る大嫁入 系柳  
 ハカマ くらふんと紙れ花ある舟の神 芦舩  
 ニウカ 入定れくく娘かこままり 士口  
 ハウタ おれこの妻て仕鳥くく大丈夫 和玉  
 ハハコ 送入るまを母れ又くく子れ出 露通  
 ハケユ 輝娘くくくくくの急く出来 民人  
 ニニハ 尾作の曲ツと車一とヤとケ 柳枝

ハカキ 経明が歌つころはしねを叩  
 ニノス 若れり人きある女支連舞うれ  
 ハナ 鶯や喜ふかかれぬ人  
 ニア 外之呂とくまを瀬川  
 ニアウ 帰きしてよかる妻れ上持浦  
 ハカト ハハハハ又法うがうく幸ひ  
 ニサ△ 女房とさきま出でてあひつ  
 ニクス みどりやふさふさくもむね田川  
 ニフレ 乙女ゆき紗へうきくまゆし

鬼突 如竹 巴水 浦丸 初床 一政 二毛 運初 紙林

ハモナ 花一束度りらハきふかき  
 ニツウ 日午れ湯よはうの草後口  
 ハカイ 鼓吹らかききと海うらひ  
 ハノセ 猿渡くのつわり目くらま  
 ハミフ 繁花の地くくくぬのぬか入り  
 ハナフ 萩うらみくくかたあき  
 ニセ 人面陰よ寄とくろ  
 ニニキ 花遠くはききぬのぬれ  
 ニイヲ 二三日是史の利いと大

柳枝 志也 毛友 忘株 赤紅 谷榜 柳枝 里味 山月

ハツレ 膝ものつりまゝとんぼと  
 ハカア 細人を汗捧ふよゝ回りの名  
 ニカマ 人形をとりあつておれを  
 ハラハ 懐ひくおめて一カ表の人  
 ハコワ 心のきと酔ふ吸つてと無君  
 ハシメ 花嫁の下まゝをく咲く新女  
 ハスモ 志小局と後居まうくしてをれ  
 ハミヤ 細の引継と敷返のま張下  
 ハコヲ 細うろくま骨のまゝお大衆  
 高道 女友 草喰 浦丸 翁眺 運物 浦丸 馬連 芦船

ハカメ 細く小侯うけてまゝとく破とらひ  
 ニヨシ 湯まじぬ月におろやあま交り  
 ハカユ けのころ免堂くゆららひ  
 ハナサ 薫とたぐくつて免を淋り  
 ニムシ 女房も物があつてはねうやひ  
 ニハサ 白服まじりて第へ百七様  
 ニテキ 羨みよとて由推草系  
 ハシ 羨みよとて由推草系  
 ニナ 女房の色もまじり白  
 末お 運物 子味 仙子 日様 花月 了達 斗一 一奴



ハト 八つ 嶽まきしそふんそまき  
 ハムラ けしとらふ虫あふふあり男作達 一寿  
 ニレイ 似て多く志んせつそと一柳家 志柳  
 ニノヲ 人あつとせういふあつとらふ先 一正  
 ニタハ けし糸のたまふ軍張る中り出 州之  
 ニクナ 帰るかひあふぬに嫁けふかすい 一毛  
 ニコキ けし糸のたまふ軍張る中り出 天口  
 ハコカ けし糸のたまふ軍張る中り出 士口  
 ハク、 けし糸のたまふ軍張る中り出 南眺

ニツレ けし糸のたまふ軍張る中り出 紅毛  
 ハニウ けし糸のたまふ軍張る中り出 其友  
 ハアヒ けし糸のたまふ軍張る中り出 浦光  
 ハケカ けし糸のたまふ軍張る中り出 露通  
 ニヲヨ けし糸のたまふ軍張る中り出 一止  
 ハケシ けし糸のたまふ軍張る中り出 露通  
 ニツヲ けし糸のたまふ軍張る中り出 鴻子  
 ニシロ けし糸のたまふ軍張る中り出 一止  
 ニスミ けし糸のたまふ軍張る中り出 其友

ハムシ 秋は素りしのもふ 碑新くき 三巻  
影の形は空のまはりにしき 壽山

ハホケ 帝まきし 坊まふまふる 建長寺 忘後

ハシメ しく白境の垣内もあつたふら 雲人

ハユト 八潮の香も人もあつたふら 志都

ハニウ 蛤も松もまのやうに 浦丸

ニヲミ 二代めし親のあつた水まひ 鬼笑

ニヤ 女房もあつたまゝ 矢岨

ハヒフ 仁ものも人う 柿はれ 更て 物 士口

ハノウ 鳥けふうつく 我 養うるさうり 如竹

ハクニ 盤石も 碎く 倦る 縁乃や 夕トニ

ハセニ 初松魚 然と 芥子も 心 度 柳枝

ハフヒ 舟まき人 古へ 故 舟の 初まき 系舟

ハナラ 舟も 舟の 情も 舟も 舟も 舟も 旅舟

ハツカ 橋はら 杖も 杖も 杖も 杖も 舟山

ハヨヒ 咄し 下見 考も 考も 考も 考も 夢お

ニキフ 新松 竹も 竹も 竹も 竹も 芦松

ハチア 坊も 坊も 坊も 坊も 什舟

ハレク けりり月ふ薄子ゆきせりし  
 ハヲロ 花の戸ら推の鼓れ薄うそひ  
 ハ、ウ 破テう笑羽子板堂ふ浦山と  
 ニキ 若のそとらととをまひてわら  
 ニクニ 女房よ唄やせせりる人面後  
 ハニク けなをまつゆきくおくふ境  
 ニヌキ 女房らぬもろく後赤清う境  
 ニメナ 二階くろりう焚火くる源うか  
 ハニタ ねきく志のく柔ら色種 純  
 一考  
 一板  
 西眺  
 瀆実  
 士口  
 色境  
 舟通  
 一九  
 桂の  
 桂の

ニカヤ あいぬ娘かろゆい孫をやうとる  
 ハメハ 伯ふぐり島島ふ達く初出され  
 ハケシ 化相とり戸と小室く正味かき  
 ハトメ 蓮のそまうとんく茂叔と目と後  
 ニヒウ 婿まうく人らと妻信くまはまき  
 ハナク 花もちりを後うと御幸此友女達  
 ハカフ 初丁ふ門へ物くじんう藤武う妻  
 ハキチ ころかり虫のそまをのそたよ窓やみ  
 ハフ子 ねうう不たひ奴どやと猫をまひ  
 一毛  
 次女  
 次女  
 桂の  
 柳枝  
 茶好  
 一九  
 吹号  
 志姐



ハ子ナ 橋守の橋をけきむ其れつき 時子  
 ニカカ 女人堂をそら回の軒く入り 光旭  
 ニホリ 肉付の佛よ怪家ら利道信 遠角  
 ニカサ 肉屏ふ團まき我とさひりり 月山  
 ハキス 機乃や切つくまゐんの籠り立 中城  
 ハコシ ちん花の代木の葉らうく葉回や 芳茂  
 ニユク 女房ふちをといりて思人つた 和入  
 ハテシ 捨乃物まてまらる懐り 沼 初麻  
 ニラミ 二代めらち奈とあつて水多み 大旭

ハツテ 花石らけりちいちを新 厚丸  
 ニハモ 浮織る楳のくちやわぬ葉うく 毛友  
 ハユカ 母ふりり袖空と孝れ新 雨肥  
 ハク 糖の蜜うらんうくくさるる新 雄五  
 ニムワ 自いあつ橋も知くを葉仕り 其友  
 ハアヒ 葉うくれのねいしつ葉れ月 鬼笑  
 ハユシ 八文の餅をまじひ尻かけけ 浦丸  
 ハヤ 鳥ねのく人照る八瀬た名月 苑月  
 ニナサ 如是我軍を後後説く在れ伯父 百女

ハユユ 春雨れさうくは美友か  
 ハトイ 袴人上紙小、刺をりけり  
 ハハ、 花雪の如く、春風れ情を  
 ニイツ り本れ物や、連きく對馬友  
 ハツキ 墓れ樹へ、細きれの如し  
 ハナレ 葉とちりなう、生機を趣む  
 ハコ 細声あけし、泣家の張地  
 ハモサ 花の山りりり、體いさく  
 ハアキ 花小生と、腕をまかせ、酒作り

多言 芦紙 春風 備丸 貴城 生友 吹寄 志友 什奴

五苓評

ハナミ くらりりり、あつと、家求は、まら  
 ニケ 綿を脱く、似蝶の痕を  
 ハホム 精々けり、けり、似蝶の痕を  
 ハラ 花乃の如く、まらり入、毎  
 ハニホ 晩鐘を鳴き、又、紙の帳ふらみ  
 ハツミ 浮気れ、路一家中、激らりり  
 ハハ 島上の氣、しる、肩小細、友  
 ニラミ 似りりり、わあ、けを、迷へり

一毛 貴旭 鬼笑 散人 意水 斗一 志友 友好



ニムワ 刀系れ娘のうねるあふく川 一毛  
 ハモ 材子へ急ぐて戻す本流と 谷橋  
 ハムラ 母さんのむしんちまへおしり 五二  
 ハサタ ちあふちうと極うけまを替人びい 志柳  
 ニスミ 虹流くくまを流し戻す之役の杖 吹寄  
 ハタカ くらくくれちまをちまよ刀紙 一歩  
 ハノフ 八丈くちま一歩ふちまふ 死 二角  
 ハキウ くらくくれちまよ字居をまきん 菊咲  
 ハノヨ くらくくくまよ字居のまき川 系柳

ニムラ 二階北灯おれちまけしふあふ 誇子  
 ニシシ 若れおれくちまをぬうおれまき 系柳  
 ハヲシ 花えくくちまをぬくく白小袖 山月  
 ハムシ けくくくくちまをぬくくはき流り 赤紅  
 ハイカ 灰橋をいのりおれくちまをぬく 月橋  
 ニアカ ニケふのちまをぬくちまをぬく 一と  
 ハシメ けくくくちまをぬくちまをぬく 柳枝  
 ハヒウ 花くくくちまをぬくちまをぬく 系柳  
 ハヤキ 細千のちまをぬくちまをぬく 山下

ニス 彦太の陣をすんきりのね 鬼矢  
 ニイク 迹すあふ智心のある 鯨魚の 廿支  
 ハス 此れよしのう 柳陣れ 一止  
 ハヨカ けしやれ嫁乃う 娘 一毛  
 ハラ けしよと 咄と 咄と 咄と 夫旭  
 ハツ 母うさるく けし けし 浦九  
 ハサミ 娘のせふさ状のふ 紅と 紅と 紅と 花月  
 ニワシ けしよと けしよと けしよと 口  
 ニミ 二一天作の信よん 又 扇風

ハカト 馬名をやの門と 志馬ふ 世まらり 左好  
 ハト 後此 佐藤は 十月 美殿 士口  
 ハサミ 揚子 酒のう けし けし 竹馬  
 ハフユ 羽之守の 武士れ けし けし 魚丸  
 ハナ 判り けし けし けし 和玉  
 ニスヤ 鈴を けし けし けし 南北  
 ハヤ 志を けし けし けし 木英  
 ハコサ 和花の けし けし けし 月心  
 一、夕 女房の 女房と 名乗る けし 巴水

ハナミ 湯殿の洞をわきく身信娘子 史旭  
 ハク 雲を封切り喰ふと花野 飛角  
 ハホサ 行ふく物り出さるる之々の店 秀通  
 ハアカ 押ひ人のまうアノニア 天口  
 ニナサ 二ようふ泣くれを帯ハニトリ 奇山  
 ハ、 雲よりみくく世昇る後 南河  
 ハタチ 葉きせらふ煙草をく如智也リ 南眺  
 ニイ 人冬代う今うよ大 斗一  
 ハヲ、 夏向の蚊婦を直ちかゝる鳥 南小

ハウミ 毛より毛を條と田れみうん山 露通  
 ハカヲ 雲うわけくかゝ嘆く親の忠 志友  
 ニヒ 二階くの灯ふ移る細 原丸  
 ニウチ 鶏ふ牛のむや長ちあつ 一九  
 ニチ 雲く世信くわさくあさひ 仙子  
 ハ、 八千八百を云と投うてを 谷橋  
 ハレミ けつる言や下れぬ文まの山まぬ 鬼笑  
 ハフ 後切ると死よふ男を題同 一毛  
 ハフテ 鳩れおと休本の中ふ天の時 浦丸

ニコナ 振り男振去の鬚結えかせまひ 秋月  
 ハヤコ 細くのやうふ七りみりふり 其友  
 ハフ 萩見れはけさるる古へ蛇籠 亀角  
 ニハサ 二階城帯てまいてサア飯ドヤ 志都  
 ハナ 栲と登ふふ名のく辰やう 鬼笑  
 ハシ 元れ輝く萩振れ嫁 糸柳  
 ハヒミ 高臥よ火を栲る萩よ水がうら 梅枝  
 ニハカ 振りへ平親これ萩は清一 雲城  
 ニミヲ 冬ふとる栲よ粟合人よたお 其友

笠折句 新板 三種尺

笠附折句 一日菴及米評 和歌の浦

折句 浪華十二評 芦辺の鶴

折句 浪華十二評 紀子玉川

折句 浪華十二評 櫻樽

俳諧書林 紀州若山新通二丁目 帶屋伊兵衛板



此書は和歌三種尺 五言句集の内秀全 なるべし

此書は十言句集の内 秀全なるべし 初ん乃 道去るべし

此書は八言句集の内 秀全なるべし 初ん乃 道去るべし

此書は六言句集の内 秀全なるべし 初ん乃 道去るべし

此書は四言句集の内 秀全なるべし 初ん乃 道去るべし

